

JA 自己改革の実践

～農業者の所得増大と都民理解の醸成～

JAあきがわ3カ年計画策定について



平成二十七年度宮中新嘗祭献穀米

I. JA自己改革の取組みと3ヵ年計画策定について

日本の農業を取り巻く環境は、農業者の減少、高齢化に伴う未利用農地の増大等、年々厳しさを増していることに加え、TPP交渉の大筋合意といった大きな変革期をむかえ、農業従事者にとって大きな不安と混乱が広がっています。

こうしたなか、農業の競争力強化、成長産業化を実現することを目的とした改正農業協同組合法が平成27年8月に成立しました。JAグループの組織と事業の根幹にかかわる大幅な法改正であり、事業目的として「農業所得の増大に最大限の配慮をしなければならない」と明記されました。

今後は営農指導事業の強化等を軸とした自己改革が求められるとともに、地域に根ざした協同組合としての存在意義を発揮していかなければなりません。

JAあきがわにおいては、「JA自己改革」を地域に必要とされるJAとして、あるべき姿を再検討する機会と認識し、目標達成に向かって、組織全体で取り組むこととし、3ヵ年計画の策定においては、組合員アンケートの実施、全役職員での検討、さらに地域座談会を開催し、様々な意見を拝聴し集約してまいりました。

この3ヵ年計画は、「JA自己改革の実践」をメインのテーマとし、「東京農業の振興を踏まえた農業者の所得増大」「地域貢献活動による都民理解の醸成」「組合員と共に歩む組織づくり」「JA自己改革の実践を支える経営基盤の強化」の4つを計画の柱として構成しております。

これからも組合員及び地域住民の皆様と共に歩み続けるJAとなるべく、実践計画として作成いたしました。



あきる野市産業祭宝船（青壮年部）

II. 3ヵ年計画のめざす姿(ビジョン)とJAあきがわの経営理念

JAあきがわでは「愛され 親しまれ 信頼されるJA」を経営理念に掲げ、組合員及び地域の皆様とともに歩んでまいりました。この理念は当組合が不変とするものであり、3ヵ年計画においてのめざす姿「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立においても踏襲いたします。また、「まごころのおつきあい」をキーワードに、役職員一人一人が地域に必要とされるJAとしてのあるべき姿を思い描きながら行動を起こし実践してまいります。

